

この道は白秋 山田耕作の作だ

その甲の

その甲の ぞうだよ 不せさよと 馬車で行った

よ がとておき口入っている

そのようふことを

のぞんで いんのかもしよるん

そのころ 母の存在が 心の甲に大きく

くめていふと思ってる

その母と馬車で 不ふか今しんかつたのだ

その母は そのころでおしまいの

次がりは 思いうかぶのは ちがう母親

人は人を見れば ちがってくる

母親 その人もちがうて来た

親の思いぬのアルム ぬを思いました

みんなと こんんこと あつたでしよし

いつに存つても 少すれなれ

思い出といふのは

いつになつても わずかある

いい思いいふばかりでない

つらい 苦しかく 思い出さず

それら皆 過去として すがたへ 行つた

残つて いるのは 現在の私

現在の自分は

つらい ことなど ない

いい日だ

いい日だ つづか 自分らしく いたい

明日も 次の日も

あつと いい日ぞ ありたい

2023
4/4